

令和元年度

社会福祉法人長野りんどう会

事業報告

令和2年6月

# 目 次

項 目	ページ
はじめに .....	1
一 法人運営 .....	2
二 各サービス事業の実績	
1 指定生活訓練事業(フレッシュとくま) .....	7
2 指定宿泊型訓練事業(フレッシュとくま) .....	9
3 指定生活介護事業(フレッシュとくま) .....	12
4 指定短期入所事業(フレッシュとくま) .....	14
5 指定就労移行支援事業(ワークス上駒) .....	16
6 指定就労継続支援B型事業(ワークス上駒) .....	18
7 指定就労定着支援事業(ワークス上駒) .....	21
8 地域活動支援センター事業(スローステップ) .....	22
9 指定一般相談支援事業(相談室) .....	24
10 指定特定相談支援事業(相談室) .....	25
11 指定障害児相談支援事業(相談室) .....	27
12 指定共同生活援助事業(グループホーム) .....	28
13 指定自立生活援助事業(自立生活支援室) .....	30

## はじめに

令和元年度は、事業計画に基づいた事業推進を行った。

各事業としては、まずフレッシュとくまは、生活訓練事業（日中）、生活介護事業とも1日平均利用者数が定員10人（目標10人）上回る結果となった。生活介護事業は、それぞれのニーズに応えた支援を実施することで、下半期にかけて契約者数も増加した。

宿泊型訓練事業は、10人が退所して新たな生活を始めた。また、新規利用者の中で、自宅での家族からの虐待で、2名の緊急入所があった。

次に、ワークス上駒の就労移行支援事業では、一般企業へ1人就労者を出すことができたが、延べ利用者数は昨年度を下回った。

就労継続支援B型事業では、屋内作業、屋外作業ともに利用者の特性を生かす工夫等を行ない、利用実績工賃アップに繋がった。

就労定着支援事業は、新規利用者が3人増となった。

スローステップ（地域活動支援センターⅢ型）では、令和2年度にフレッシュとくまの日中訓練がスローステップで行われるにあたり、スローステップのこれからの活動について見直し・検討ができた。今までの形をどう変えていくか、メンバー・スタッフともに考えていく良い機会となった。

相談支援事業では、報酬改定があり収入減とはなったが、個々のニーズに沿った支援が受けられるようサービス等利用計画の作成を行った。

グループホームでは、世話人体制5：1での支援に加え、看護職員による健康管理も継続した。利用者ニーズに合わせてグループホームごとに支援内容に特色を持たせたサービスの提供をしてきた。入所者のうち1人がアパートでの一人暮らしに踏み出すなど、3人が退所することができた。利用実績は昨年度を下回った。

自立生活援助事業では、利用期限が1年という中で、利用開始当初から終了時を見据えて支援を組み立てなくてはならないが、目先の課題に追われることが多かった。今後利用者の確保が課題と考えられる。2人が利用中で、地域生活での不安解消や課題解決に向けた支援を行っている。

## 一 法人運営

### 1 会議等の開催状況

#### (1) 評議員会(2回開催)

- R1. 定時 R1. 6. 24 平成 30 年度決算及び事業、第 11 期役員を選任  
R2. 3 月 R2. 3. 30 令和 2 年度事業計画及び資金収支予算、理事の選任、役員等報酬  
規程の改訂

#### (2) 理事会(6回開催)

- 第 82 回 R1. 6. 3 平成 30 年度決算及び事業、令和元年度定時評議員会の招集、議  
案等  
第 83 回 R1. 6. 24 理事長の選定、副理事長及び常務理事の選定  
第 84 回 R1. 10. 23 法人の今後の業務執行、就業規則等の改訂、給与規定の改訂、理  
事長及び常務理事の職務執行状況報告  
第 85 回 R2. 2. 5 管理運営規程の改訂(決議の省略)  
第 86 回 R2. 3. 11 令和 2 年度事業計画及び資金収支予算、管理運営規定・経理規程  
の改訂、理事候補者の選任、第三者委員の委嘱、重要な職員の選  
任解任、理事長及び常務理事の職務執行状況報告、令和 2 年 3 月  
評議員会の招集  
第 87 回 R2. 3. 31 常務理事の選定(決議の省略)

#### (3) 監査

- R1. 5. 23 平成 30 年度事業及び会計処理全般の監査

#### (4) 施設運営会議

- ・開催回数 43 回(毎週水曜日午後定例開催)
- ・構成員 正副理事長、常務理事、施設長(管理者)

### 2 法人運営事務

#### (1) 規程等の制定、改訂

- |            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| ・管理運営規程の改訂 | 第 85 回理事会 | 第 86 回理事会 |
| ・給与規程の改訂   | 第 82 回理事会 | 第 84 回理事会 |
| ・就業規則等の改訂  | 第 84 回理事会 |           |
| ・経理規程の改訂   | 第 86 回理事会 |           |

#### (2) 役員等の研修状況

- |                                   |     |     |
|-----------------------------------|-----|-----|
| ・全国社会福祉法人経営者協議会セミナー(31. 4. 19)    | 東京都 | 1 人 |
| ・長野県社会福祉法人経営者協議会セミナー(元. 7. 29)    | 長野市 | 3 人 |
| ・長野県・市福祉介護職員等特定処遇改善加算説明会(元. 8. 2) | 長野市 | 1 人 |

- ・ 苦情対応システム研修会 (元. 11. 14) 須坂市 4人
- (3) 登記関係
  - ・ 資産総額の変更 (R 元. 6. 27 登記申請)
- (4) 協定・賃貸借契約等関係
  - ・ 長野市有財産賃貸借契約、ワークス上駒分 (契約期間 10 年 6 ヶ月)
    - 契約日 H22. 9. 29
    - 一部借増 契約日 H27. 9. 1 当年度分 836, 064 円
  - ・ 長野市有財産賃貸借契約、スローステップ分 (契約期間 10 年)
    - 契約日 H23. 4. 1 当年度分 401, 223 円
  - ・ 長野市有財産賃貸借契約、ワークス西駐車場分 (契約期間 3 年)
    - 契約日 H28. 4. 1 (借増 H28. 5. 1) 当年度分 613, 115 円
  - ・ 「いなだの家」建物賃貸借契約 (20 年契約)
    - 契約日 H16. 4. 14 月 130, 000 円
  - ・ 「のくとまーる」当初の建物賃貸借契約 (自動更新)
    - 契約日 H24. 3. 26 月 150, 000 円
  - ・ 「のくとまーる」の定員増分及び 207 号 (物置) の建物使用貸借契約 (自動更新)
    - 契約日 H24. 9. 25 月 140, 000 円
  - ・ 「こまざわハウスサテライト」F ドエル 104 号 (契約期間 2 年)
    - 契約日 H30. 9. 13 月 30, 000 円
  - ・ 「こまざわハウスサテライト」徳間コーポ 202 号 (契約期間 2 年)
    - 契約日 H30. 9. 14 月 31, 000 円
  - ・ 「いなだの家サテライト」パークハイム東和田 205 号 (契約期間 2 年)
    - 契約日 H30. 9. 14 月 31, 000 円
  - ・ 「のくとまーるサテライト」グランステージ長野 101 号 (契約期間 2 年)
    - 契約日 H30. 9. 14 月 33, 000 円
  - ・ 駐車場賃貸借契約 第 2 駐車場分 (自動更新)
    - 契約日 H26. 4. 1
    - 契約変更 H28. 6. 1 (一部返還) 変更後 月 18, 000 円
- (5) 業務委託等の契約
  - ・ 廃棄物処理委託定期契約 (宝資源開発株) H24. 6. 11 (契約)
    - H31. 2. 1 (覚書) 月 14, 472 円
  - ・ 清掃業務委託契約 (ワークス上駒分) (株)サニクリーン甲信越)
    - H27. 4. 1 (自動更新) 年 218, 160 円
    - (本館分) (株)サニクリーン甲信越) H28. 9. 1 (自動更新) 年 396, 360 円
  - ・ 小型エレベーターメンテナンス契約 ワークス上駒 (ハナソニックホームエレベーター株)
    - H23. 4. 1 (自動更新) 年 109, 080 円

- ・ 荷物昇降機保守点検契約(株カリアトコーポレーション)H13. 2. 1 (自動更新) 年 73, 440 円
- ・ 自動ドア保守管理業務委託契約 (本部・ワークス上駒)  
(株長野ナブコ) H30. 6. 1(自動更新) 年 155, 520 円
- ・ 受水槽清掃保守点検契約 (株三京) H25. 9. 1 (自動更新) 年 32, 400 円
- ・ 警備契約 (新日本警備保障株)
  - 本館 H26. 2. 10 (契約期間 5 年間) 月 9, 900 円
  - こまざわハウス, いなだの家 H26. 2. 15 (契約期間 5 年間) 月 15, 070 円
  - のくとまーる H26. 2. 10 (契約期間 5 年間) 月 10, 780 円
- ・ 消防用設備保守点検契約
  - フローステップ分 (ホーチキ株) H23. 4. 1(自動更新) 年 47, 520 円
  - 本館分 (ホーチキ株) H28. 4. 1(自動更新) 年 259, 200 円
  - ワークス上駒分 (株ナショナル防災) H23. 4. 1(自動更新) 年 48, 600 円
  - こまざわハウス (新日本警備保障株) H26. 3. 1(自動更新) 年 22, 420 円
  - いなだの家 (新日本警備保障株) H26. 3. 1(自動更新) 年 37, 022 円
- ・ ホームページ運用サポート契約(株ディーエスブランド)  
H28. 12. 26 (1 年更新) 年 55, 000 円
- ・ コピー機保守契約 本部 (株蔦友)  
H29. 9. 14 (5 年間) 白黒 1 枚 2. 1 円、カラー 14 円
- ・ コピー機保守契約 ワークス上駒 (株蔦友) H25. 11. 15(5 年間)  
1 セット 44, 280 円/5 千枚
- ・ 健康診断委託契約 (財)全日本労働福祉協会) H13. 1. 17 (自動更新)  
(R 元年度実績) 38 人 346, 502 円

### 3 施設及び設備整備事業について(新規契約)

#### (1) 固定資産購入等の契約

- ・ 公衆電話 本部入口 1 台 (耐用年数 6 年) 130, 032 円
- ・ 冷蔵庫 いなだの家 1 台、フレッシュ 1 台 (耐用年数 6 年) 274, 644 円
- ・ パソコン 会計 1 台、**本部共用** 1 台 (耐用年数 4 年) 291, 600 円
- ・ 輪転機 本部 1 台 (耐用年数 5 年) 209, 000 円

#### (2) 施設整備及び設備整備の契約 新規対象なし

### 4 資金の状況について(R2. 3. 31)

- ・ 寄附金収入 22, 945, 000 円
- ・ 当年度資金収支差額 32, 093, 593 円
- ・ 当年度施設整備等資金積立額 3, 000, 000 円
- ・ 年度末施設整備等積立金総額 50, 000, 000 円

・年度末純資産総額	544,917,739 円
・年度末借入金残額	16,254,000 円

## 5 人事管理について

(1) 職員の資質の向上と公正な人事管理を目的とした人事管理システムにより次のとおり実施した。

### ア 人事考課（業務管理）の実施

前期（4月～9月）業務の自己評価と施設長による評価を行った。

(2) 雇用状況について(H31.4～R2.3)

- ・採用 正職員 1人、嘱託職員 新規 1人 継続 5人  
非常勤職員 新規 0人 継続 15人
- ・退職 正職員 1人、嘱託職員 2人、非常勤職員 1人
- ・3月31日在籍職員数（3月末退職者含む） 43人  
正職員 24人、嘱託職員 5人、非常勤職員 15人(内当直職員 5人)

## 6 職員研修について

職員研修実施要綱（基本計画）に基づき、「令和元年度研修計画」を策定して計画的な職員研修を行った。

(1) 内部研修

- ・各事業所内でのOJTによる研修の実施（新規職員等）（年間）
- ・朝の職員連絡会議で内容報告（毎日）
- ・各事業所単位ミーティングで伝達研修（週1回）
- ・月例職員会議での職員周知のための伝達講習（月1回）

(2) 外部での一般研修受講

- ・受講した研修等の項目と延日数 58項目・120日
- ・研修等受講者延べ数 98人
- ・一人当たり平均研修日数 1.2日
- ・58項目研修開催地 長野市内 35、長野市以外県内 14、県外 9

## 7 施設及び事業経営について

(1) 施設等の経営状況

① 指定生活訓練事業（フレッシュとくま）

- ・日中 定員 10人 日平均利用者数 10.1人
- ・宿泊 定員 17人 日平均利用者数 13.5人

② 指定生活介護事業（フレッシュとくま）定員 10人 日平均利用者数 10.8人

③ 指定短期入所等事業（フレッシュとくま）定員 3人

* 自立体験事業・私的利用を含む		日平均利用者数	2.1人
④ 指定就労移行支援事業(ワークス上駒)	定員 6人	日平均利用者数	3.0人
⑤ 指定就労継続支援B型事業(ワークス上駒)	定員 34人		
		日平均利用者数	32.4人
⑥ 指定就労定着支援事業(就労定着支援室)	定員 なし		
		月登録実人員	4人
⑦ 地域活動支援センターⅢ型(スローステップ)	定員 25人		
		日平均利用者数	18.7人
⑧ 指定一般相談支援事業(相談室)	地域移行支援利用延月数		11月
	地域定着支援利用延月数		65月
⑨ 指定特定相談支援事業(相談室)			
		サービス等利用支援	252件
		継続サービス等利用支援	479件
⑩ 指定障害児相談支援事業(相談室)	相談延件数		12件
⑪ 指定共同生活援助事業(グループホーム)	定員 25人		
		日平均利用者数	20.8人
⑫ 指定自立生活援助事業(自立生活支援室)	定員 なし		
		月登録実人員	2.1人
(2) 事故等の状況	保険請求分 5件		
	転倒事故		4件
	接触皮膚炎		1件
(3) 防災・安全対策			
・ 消火・避難訓練			
	フレッシュとくま 12回、ワークス上駒 2回、スローステップ 2回、グループホーム(いなだの家・こまざわハウス・のくとまーる 各2回)		
・ 消火設備等の点検	2回実施(専門業者に委託)		

## 8 その他

- ・ 会報誌 (No57～No59) の発行
- ・ 年報 (平成 30 年度版) の発行
- ・ 地域、行政、関係団体、地元組織等との連携協力を努めた。
- ・ 長野市障害者自立支援協議会 (長野市障害ふくしネット) への参加協力をした。
- ・ 視察や見学・学生実習・職員研修生等を受け入れた。



## 二 各サービス事業の実績

### 1 指定生活訓練事業 (定員 10 人) (フレッシュとくま)

年間実利用者数は、34 人で、作業所への通所や宿泊型退所につき 14 人が解約した。  
一日の平均利用者数は 10.1 人で、目標の 10 人は達成できた。  
利用者各々の今後の生活に必要な事を支援することで、自信に繋げた。  
また、2 人に訪問訓練を行った。

#### (1) 重点事項

- ア その人らしい生活ができるよう、自主性・自発性の尊重
- イ 利用者の確保による経営の安定

#### (2) 取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
  - (ア) 3ヶ月ごとに振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。
  - (イ) 月末に振り返りと来月の目標決めをした。
- イ 健康保持と生活習慣病予防
  - (ア) 毎月、専門職員による健康相談の実施をした。
  - (イ) 風邪、インフルエンザ、食中毒等感染症予防への勉強会を開いた。
- ウ 利用者を確保する
  - (ア) 年間を通し医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。
  - (イ) ホームページでの情報発信をした。
  - (ウ) 必要な利用者への送迎を行った。
- エ その他
  - (ア) 地域貢献・交流活動を実施した(ぞろ目の会、老人ホーム等)。
  - (イ) 近隣施設でのボランティア活動を実施した(特養へ定期訪問)。
  - (ウ) 法人行事等に参加した(花見、ふれあいまつり、年忘れ会等)。
  - (エ) 事業所内外行事等を実施した(歓送迎会、フレッシュ旅行、あった会等)。

#### (3) 実績

##### ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	2,453	10.1	36	12
平成30年度	2,815	11.4	33	13
比較	△362	△1.3	3	△1

##### イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	22	21	17	15	17	17	17	20	19	20	19	18	18.5人
開所日数	21	21	22	23	18	20	21	20	21	19	18	21	245日
延利用者数	278	248	196	196	162	154	179	214	226	209	185	206	2,453人
平均利用者数/日	13.2	11.8	8.9	8.5	9.0	7.7	8.5	10.7	10.7	11	10.2	9.8	10.1人
平均利用日数/人	12.6	11.8	11.5	13.0	9.5	9.0	10.5	10.7	11.8	10.4	9.7	11.4	10.9日

#### ウ 1日の利用者数

最小人数	7人
最大人数	15人

#### (4) 職員体制 (R2.3.31 現在)

管理者、サービス管理責任者、生活支援員、訪問支援員、看護師

#### まとめ

- ・個別支援計画に基づき、各々の不得意な所を支援し、得意な所は評価し自信に繋げた。
- ・生活訓練から作業所への移行がスムーズにできた。
- ・来所が困難な利用者には、訪問して相談、アドバイスをした。

#### 課題

- ・活動への参加のモチベーションを高めることが困難。
- ・生活訓練として具体的な成果が見えにくい。

#### 資料 (令和2年3月31日現在)

##### 年代別数

(人)

性別 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 14	5	1	4	2	2
女 6	1	1	1	3	0
計 20	6	2	5	5	2

##### 障害支援区分別数

(人)

性別 数	区分1	区分2	区分3	区分4以上	未判定
男 14	2	3	4	0	5
女 6	0	5	1	0	0
計 20	2	8	5	0	5

障害原疾患別数

(人)

性別 数	統合失調症	双極性障害	その他
男 14	8	1	5
女 6	0	0	6
計 20	8	1	11

保証人の状況

(人)

性別 数	親	兄弟	配偶者	子	市町村	その他
男 14	7	4	0	1	0	2
女 6	3	0	3	0	0	0
計 20	10	4	3	1	0	2

障害福祉サービス支給市町村

(人)

性別 数	長野市	千曲市	須坂市	信濃町	小川村	筑北村
男 14	8	2	1	1	1	1
女 6	5	1	0	0	0	0
計 20	13	3	1	1	1	1

## 2 指定宿泊型訓練事業（定員 17人）

（フレッシュとくま）

一日の平均利用者数は13.5人で、目標数14人に若干下回った。

利用者のうち11人が退所した（自宅が4人、アパートが1人、グループホームが5人）台風被害にあった病院から1人入所したが元の病院に戻った。

また、新たに自宅から4人、病院から3人、グループホームから1人が入所した。

今年度は自宅から虐待等で緊急での入所者が2人いた。

### （1）重点事項

ア 利用期間の長短にとらわれない考え方のもとで、個人に合った生活スタイルで地域での新たな生活への展開の検討

イ 地域との交流の継続・促進

ウ 相談支援事業所、医療機関、行政等との連携による利用者確保

### （2）取り組み

ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援

（ア）3ヶ月ごとの振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。

（イ）その人にあった地域生活ができるように支援した。

イ 利用者の確保

(ア) 年間を通して医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。

(イ) ホームページでの情報発信をした。

ウ 安全で衛生的な環境への配慮

(ア) 防災設備の定期的な点検、維持を行った。

(イ) 防災訓練を毎月実施した。

(ウ) 生活の場にふさわしい快適な環境を提供した。

エ 地域との交流

(ア) 若槻地区のボランティアとの共同作業を実施した。

(イ) 地産地消推進員との交流の場を設けた。

オ その他

(ア) 施設行事等への参加を支援した（花見、ふれあいまつり、年忘れ会等）。

(イ) 事業所内外行事等への参加を支援した（フレッシュ旅行、歓送迎会、食事会等）。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	4,914	13.5	24	8
平成30年度	4,961	13.6	30	15
比較	△47	△0.1	△6	△7

イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	15	14	15	14	14	14	15	15	15	16	15	15	14.8人
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	424	405	425	408	399	380	402	428	439	451	365	388	4,914人
平均利用者数/日	14.1	13.1	14.2	13.2	12.9	12.7	13.0	14.3	14.2	14.5	12.6	12.5	13.5人
平均利用日数/人	28.3	28.9	28.3	29.1	28.5	27.1	26.8	28.5	29.2	28.2	24.3	25.9	27.8日

ウ 1日の利用者数

最小人数	10人
最大人数	16人

(4) 職員体制 (R2.3.31)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 地域移行支援員 看護職員 調理員  
宿直者

まとめ

・2人が住み慣れた自宅での一人暮らしに移行できた。自宅に帰る事が入所時からの目標で

あり、退所後の生活が安定するよう環境調整をした。

- ・3人がライフサポートりんどうのグループホームに転居し、2人が他事業所のグループホームに入所した。

転居のタイミングは、グループホームの空き室との関係で調整した。

- ・宿泊型での生活環境や対人関係になれずに、訓練が達成しないまま退去となった。

## 課 題

- ・入所が本人の希望というよりは、退院して住む場所がない、自宅に居られないため入所するという理由が多いため、訓練の意義が見いだせない人にどう支援していくのか。
- ・利用者に対しては不得意な面への支援を行っているが、個別の支援が必要なため、日中生活訓練事業の内容が多岐にわたる。
- ・きめ細かく関係者を招集して、成果や課題を共有していく。

## 資 料（令和2年3月31日現在）

### 障害福祉サービス支給市町村 (人)

性別 数	長野市	千曲市	佐久市	信濃町	小川村
男 9	4	2	1	1	1
女 4	3	1	0	0	0
計 13	7	3	1	1	1

### 入所利用前の居住地 (人)

性別 数	病院	自宅	他施設
男 9	6	2	1
女 4	0	4	0
計 13	6	6	1

### 日中活動状況（併用あり） (人)

性別 数	生活訓練	生活介護	就労継続・B型	地域活動支援センター	デイケア・OT
男 11	9	0	2	0	0
女 8	3	0	4	1	0
計 19	12	0	6	1	0

生活基盤の状況 (人)

性別 数	年金	年金と他の収入	家族の援助
男 9	4	5	0
女 4	0	3	1
計 13	4	8	1

\*他の収入は、工賃、親族からの支援など

### 3 指定生活介護事業（定員 10 人）（フレッシュとくま）

一日の平均利用者数は 10.8 人で、目標の 10 人を上回ることができた。

日中過ごす場所として利用希望者が増加している。体操やストレッチで健康維持の支援をしたり、血圧や体重測定を行うことで体調不良を早期発見できるようにした。

年度末には、日中活動の中に軽作業も導入した。

令和 2 年度より定員増の計画があったため、契約者数の増化を図った。

#### (1) 重点事項

ア 健康維持と体調管理をして、安定した地域生活ができるよう支援

イ 生活の充実とやりがいを見出す支援

#### (2) 取り組み

ア 体調維持

(ア) 看護職員による健康チェック、健康体操

(イ) 入浴、洗濯、食事の支援

(ウ) 軽作業の生産活動

イ 地域との交流

(ア) 地域、地区の行事への参加

(イ) 近隣施設でのボランティア活動

ウ その他

(ア) 施設行事等への参加を支援（花見、ふれあいまつり、年忘れ会等）

(イ) 事業所内外行事等への参加を支援（フレッシュ泊旅行、あった会、せいしれんセミナー等）

#### (3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1 日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	2,869	10.8	38	4
平成 30 年度	2,738	10.2	31	6
比較	131	0.6	7	△2

イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	23	25	26	28	26	27	27	29	29	29	31	33	23.8人
開所日数	23	23	22	25	20	22	23	21	23	21	20	23	266日
延利用者数	227	229	200	278	204	212	243	248	256	239	244	289	2,869人
平均利用者数/日	9.9	10.0	9.1	11.1	10.2	9.6	10.6	11.8	11.1	11.4	12.2	12.6	10.8人
平均利用日数/人	9.8	9.1	7.7	7.3	7.5	7.9	9.0	8.6	8.8	8.2	7.9	8.8	8.4日

ウ 1日の利用者数

最小人数	2人
最大人数	15人

(4) 職員体制 (R2.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 嘱託医 看護職員

まとめ

- ・新規の契約者が昨年より7人増え、ほとんどの人が継続利用となっている。体調不良で通所できなくなった人が3人いた。
- ・看護師による健康相談や、緊急時の対応がスムーズにできた。
- ・軽作業に取り組むことで、活動にメリハリがついた。
- ・入浴支援等で清潔保持がより一層できるようになった。

課題

- ・欠席者が毎日数人あることを考慮して定員を若干オーバーした受入体制を整えているが、通所日には安定して通えるようにしたい。
- ・送迎希望者が増え、送迎ルートと時間の調整が複雑になっている。

資料 (令和2年3月31日現在)

年代別数

(人)

性別 数	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 24	2	2	11	9
女 10	1	1	3	5
計 34	3	3	14	14

障害支援区分別数 (人)

性別 数	区分 2	区分 3	区分 4
男 22	13	8	1
女 12	10	2	0
計 34	23	10	1

障害原疾患別数 (人)

性別 数	統合失調症	うつ・統合失調症	うつ	双極性障害	その他
男 22	17	0	0	1	4
女 12	7	1	2	1	1
計 34	24	1	2	2	5

保証人の状況 (人)

性別 数	親	兄弟	子ども	配偶者	従兄弟	その他
男 22	9	12	0	0	0	1
女 12	2	6	2	1	1	0
計 34	11	18	2	1	1	1

障害福祉サービス支給決定市 (人)

性別 数	長野市	須坂市	千曲市	麻績村
男 22	20	0	1	1
女 12	11	0	1	0
計 34	31	0	2	1

#### 4 指定短期入所事業 (定員 3 人) (フレッシュとくま)

(地域移行・自立生活訓練事業・私的利用を含む)

一日の平均利用者数は 2.1 人で、目標の 1.2 人をかなり上回った。

宿泊型訓練の体験利用だけでなく、定期利用者の安定利用と長期間の緊急時利用も利用者数アップにつながった。

(1) 重点事項

- ア 緊急利用も受け入れられる体制
- イ 個々のニーズに対応
- ウ 行政、医療機関、長野市障害ふくしネット等との連携

(2) 取り組み

- ア さまざまな利用目的に対応し受入れをした。



イ 家族、ケアプランナー、病院のワーカーとの連携をした。

ウ 病院からの地域移行の体験利用で受入れをした。

### (3) 実績

ア 年度比較（地域移行、自立生活訓練、私的利用者を含む） (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	実利用者数
令和元年度	753	2.1	35
平成30年度	512	1.5	27
比較	241	0.6	8

### イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	69	81	37	65	64	47	61	59	75	49	66	80	753人
平均利用者数/日	2.3	2.6	1.2	2.1	2.1	1.6	2.0	2.0	2.4	1.6	2.3	2.6	2.1人

### ウ 1日の利用者数

最小人数	0人
最大人数	3人

### (4) 職員体制（R2.3.31現在）

管理者                  支援員

### まとめ

- ・緊急での利用開始から長期間利用に繋がった人が3人いた。
- ・定期利用者に対して、各々の利用目的に合った支援ができた。

### 課題

- ・定期利用者と体験利用者の支援内容を検討していく。
- ・緊急時受入れは、支援困難な利用者や時間外での受入れとなるため、業務が煩雑となる。

資料（令和2年3月31日現在）

年代別実利用者数

(人)

性別 数	19歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 22	6	3	4	5	4
女 13	0	2	4	4	3
計 35	6	5	8	9	7

## 5 指定就労移行支援事業（定員6人）（ワークス上駒）

就労移行支援事業は、開設9年目を終えた。

令和元年度は一般企業等への就労者を1人出すことができた。

1日平均利用者数は平成30年度の5.6人から3人へと大幅に減少した。

### （1）重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 就労に向けて知識及び労働習慣等習得のための支援
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 就労に向けて関係機関と連携した支援
- オ 就労定着の充実

### （2）取り組み

- ア 3か月ごとの個別支援目標の振り返りや確認等行いステップアップを図った。
- イ ジョブガイダンスをハローワークに出向いて実施した。
- ウ 個別支援計画に基づき、実習を行った。
- エ 事業所見学等を実施した。
- オ 利用者個々の特性を生かして作業訓練を行った。
- カ 職場実習や施設外就労を通じ労働意欲の向上を図った。
- キ 企業等において継続して作業を実施し、就労のイメージを掴んだ。
- ク 就労関係機関や特別支援学校と連携を深め、就労支援に当たった。
- ケ 面接や電話による相談及び職場訪問を継続的に行った。
- コ 各種行事等を実施した
  - （ア）法人行事への参加（花見会、ふれあいまつり、ソフトバレー大会、流しそうめん、年忘れ会、餅つき）
  - （イ）ワークス行事の実施（バーベキュー、フルーツ農園、事業所見学と外食体験、お楽しみ昼食会）

### (3) 実績

#### ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	727	3	9	6
平成30年度	1,358	5.6	12	5
比較	△631	△2.6	△3	1

#### イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	20	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	23.9日
延利用者数	76	69	77	84	50	55	46	39	58	53	68	52	72.7人
実利用者数/月	4	4	5	4	3	3	3	2	4	4	4	3	4.3人
平均利用者数/日	3.6	3.5	3.9	3.8	2.8	2.9	2.2	2	2.9	2.8	3.8	2.5	3人
平均利用日数/人	19	17.3	15.4	21	16.7	18.3	15.3	19.5	14.5	13.3	17	17.3	16.9日
就労者数			1										1人

#### ウ 1日の利用者数

最小人数	2人
最大人数	5人

### (4) 職員体制 (R2.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 就労支援員

職業指導員 生活支援員

#### まとめ

- ・就職相談会等で活かせる、面接での受け答え、履歴書の書き方等の就労学習会を設けた。
- ・利用者個々のニーズを聴きながら職場実習をおこなった。
- ・面談等の時間を多く設けた。

#### 課題

- ・職場実習の場を開拓していく。
- ・2年間の利用期限に捉われず、早目の就労を目指していく。
- ・利用者の確保に努める。

資料 (令和2年3月31日現在)

年代別数 (人)

性別 数	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代
男 3	0	3	0	0
女	0	0	0	0
計 3	0	3	0	0

居住地別利用者数

長野市 2人 信濃町 1人

## 6 指定就労継続支援 B 型事業 (定員 34 人) (ワークス上駒)

就労継続支援 B 型事業は、開設 9 年目を終えた。

1 日平均利用者数は、平成 30 年度の 29.9 人から 32.4 人と、目標の 32 人を上回った。

作業については、個々の特性に応じた作業場所や作業種目を提供した。

また、屋外作業を積極的に取り入れた。

新規利用者が増えた。

### (1) 重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 目標工賃達成指導員を中心に工賃アップと作業量の確保
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 長期利用者のニーズの確認と安定した利用に向けての支援

### (2) 取り組み

- ア 6 か月ごとの個別支援計画の振り返りや目標の確認等行いステップアップを図った。
- イ 毎日 5 時間作業できるよう、作業量を確保した。
- ウ 利用者への食事提供体制を整え、喫茶の収益増を図った。
- エ 自主製品 (弁当・おやつ等) の売上増を図るとともに魅力あるメニューの開発をした。
- オ 個々の利用者に合わせた作業訓練を行い、作業時間の延長や利用日を増やした。
- カ 利用者一人ひとり意欲的に作業が行えるよう働きかけをした。
- キ 通所できない利用者には、面接等を通してニーズを聴き、次の支援につながるよう働きかけた。
- ク 一人ひとりの利用時間を柔軟に設定するなどきめ細かな支援をした。
- ケ 面接相談・電話相談などにより不調時の支援を行った。
- コ 各種行事の実施
  - (ア) 法人行事への参加 (花見会、ふれあいまつり、ソフトバレー大会、流しそうめん、年忘れ会、餅つき)

(イ) ワークス行事の実施 (バーベキュー、フルーツ農園、事業所見学と外食体験、お楽しみ昼食会)

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	7,733	32.4	54	7
平成30年度	7,216	29.9	55	8
比較	517	2.5	△1	△1

イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
日数	21	20	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	239日
延利用者数	47	48	48	49	49	49	49	49	46	47	47	46	7,733人
実利用者数/月	47	48	48	49	49	49	49	49	46	47	47	46	47.8人
平均利用者数/日	31.8	31.5	31.9	32	31.7	32.7	32	32.8	33.7	31.4	34.1	32.9	32.4人
平均利用日数/人	14.2	13.1	13.3	14.4	11.7	12.7	13.7	13.4	14.7	12.7	13.1	15	13.5日

1日の利用者数

最小人数	28人
最大人数	37人

(4) 職員体制 (R2.3.31現在)

管理者 サービス管理責任者 職業指導員  
生活支援員 目標工賃達成指導員 調理員

まとめ

- ・自主製品のお弁当は休日も注文を受けた。
- ・お菓子の販売は、定期的な移動カフェと地域の会合等で利用は増えている。
- ・年間の時給の平均は、平成30年度の321円から357円と増額となった。

課題

- ・個々の特性を活かした作業提供をしていく。
- ・今後更なる工賃アップを図るために、屋外作業を増やしていきたい。
- ・多種にわたる屋外作業の機会を通して、参加できる利用者を増やしていく。
- ・高齢の利用者の今後の生活に向けて、別のサービスに繋げていく働きかけをしていく。
- ・新規利用者を増やしていくように、見学・体験等を今後も受け入れていく。

資料（令和2年3月31日現在）

利用者数

(人)

	男	女	合計
新規契約者数	4	3	7
解約者数	6	1	7
R2.3.31現在 在籍契約者	29	16	45

年代別数

(人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
男 30	4	6	7	10	2	1
女 15	1	0	6	5	3	0
計 45	5	6	13	15	5	1

月別工賃支給状況

(小数点以下切り捨て)

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		平均	最高
4	46	16,443	52,754
賞与	45		
5	46	11,888	55,515
6	47	11,470	57,113
7	48	24,394	84,367
賞与	48		
8	48	11,716	41,400
9	46	13,517	64,188
10	47	12,809	62,036
11	48	28,367	95,521
賞与	48		
12	47	14,212	51,124
1	47	8,923	50,850
2	46	9,884	48,150
3	46	32,266	80,031
賞与	47		
平均	16,324円 (H30年度 14,077円)		

## 7 指定就労定着支援事業（定員なし）（ワークス上駒 就労定着支援室）

1年目を終えることができた。

登録者が4人となった。

### （1）重点事項

ア 就労定着支援計画に基づいたサービスの提供

イ 月1回以上の対面による面接等の実施

ウ 月1回以上の企業訪問

エ 企業・関係機関・家族等との連絡調整

### （2）取り組み

ア 目標を決めて個別支援計画に反映した。

イ 月に1度の面接日を決めて実施し、家や職場での様子を聴いた。

ウ 生活面での聞き取り等で通院の勧めや生活費について改善を促した。

エ 企業を訪問して、職場での様子から困っていること等を伝えた。

オ 職場環境がより働きやすくなるよう心掛けた。

### （3）実績

ア 年度比較

(人)

	延べ契約者数	新規利用者数	解約者数
令和元年度	4	3	0

イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	20	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	239日
延べ支援回数	2	2	2	2	2	2	4	4	4	8	8	8	4回
登録実人数/月	1	1	1	1	1	1	2	2	2	4	4	4	2人
平均利用者数/日	0.09	0.1	0.1	0.09	0.11	0.1	0.19	0.2	0.2	0.42	0.44	0.38	0.2人

### （4）職員体制（R2.3.31現在）

施設長 サービス管理責任者 就労定着支援員 職場適応援助者

まとめ

- ・登録者は（チャレンジ雇用も含む）4人となった。
- ・面談で体調の確認、職場や生活面での困りごと等の支援を行った。

## 課題

- ・今後登録者を増やしていく。
- ・就職者を増やしていく。

## 8 地域活動支援センター事業（Ⅲ型）（定員 25 人）（スローステップ）

令和元年度は、Ⅱ型からⅢ型へと事業形態の変更があったが、利用者ニーズに応えるため事業そのものの大幅な縮小や変更は行わず、概ね例年同様に日中活動の場の提供、地域活動への参加、相談活動等を行った。

地域交流事業としては、若槻地区との共催事業を年間通して実施し、より地域に根付いた活動ができた。

また、軽作業をすべての開館日に行うことが利用意欲の向上につながり、今後の方向性を検討できる場となった。

### （1）重点事項

- ア 利用者へ多様な日中活動の場の提供をする中で利用者ニーズを把握し、自己実現・自己表現・地域生活の充実の機会作り
- イ 地域住民・関係団体との連携・交流の中での誰もが住みやすい地域づくりへの協力
- ウ 担当スタッフによる定期・不定期の面接の中での利用者に寄り添った支援

### （2）取り組み

#### ア 基礎的事業

- （ア）交流室利用者（来所者） 4, 460人
- （イ）創作・生産活動  
（木工、手芸、ぞうり作り、ノバ等軽作業等） 2, 082人

#### イ 機能強化事業

- （ア）来所相談 245人
- （イ）電話相談 1, 095人
- （ウ）訪問相談 0人
- （エ）地域ボランティアの受け入れ 145人
- （オ）家族の日参加 9回開催 46人
- （カ）地域交流事業
  - ・ ミミコンサート 利用者、ボランティア等 (中止)
  - ・ 徳間小学校バザー 2人
  - ・ 花の苗交換会 2回開催 2人
  - ・ 若槻地区との共催事業

マージャン教室→7月に3回開催 参加人数11人（地元住民を含む。）



- コーヒの淹れ方教室→6月に3回開催 参加人数15人(地元住民を含む。)
- ・ボランティア参加(コーヒ淹れ) 若槻ホーム3人 住民学習会等 2人

(ケ) スローステップ通信の発行 12回

(3) 実績

ア 開所日数 238日

イ 利用契約者数 83人 (R2.3.31現在)

ウ 年度比較 (人)

	延べ利用者	1日平均利用者数	新規契約者数	解約者数
令和元年度	4,460	18.7	7	21
平成30年度	5,018	20.8	10	13
比較	△558	△2.1	△3	8

エ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	20	20	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	238日
延べ利用者数	375	412	435	451	278	350	408	404	383	355	318	291	4,460人
登録実人数/月	83	82	84	83	82	83	83	83	83	82	82	83	81.5人
平均利用者数/日	18.8	20.6	21.8	20.5	15.4	18.4	19.4	20.2	19.2	18.7	17.7	13.9	18.7人
平均利用日数/人	4.5	5.0	5.1	5.4	3.3	4.2	4.9	4.8	4.6	4.3	3.8	3.5	4.5日

(4) 職員体制 (R2.3.31 現在)

施設長 支援員(常勤・専従) 専門職員(常勤・兼務)

まとめ

- ・令和元年度も継続登録者が大多数を占め、安定した利用者確保はできた。
- ・フレッシュとくまの日中訓練が令和2年度よりスローステップで行われることになり、それに伴って地活のあり方を見直し・検討する良い機会となった。
- ・共催事業の継続実施により住民自治協議会との連携が図れた。

課題

- ・令和2年度において、事業内容を変えてみての検証が必要。
- ・事業内容の変更により、平均利用者数の減少が想定される。1日の利用者が15人を下回

らないように活動を検討する。

資料（令和2年3月31日現在）

障害福祉サービス支給決定市町村

須坂市	2人	信濃町	2人	千曲市	3人	小川村	1人	飯山市	0人
麻績村	1人	新潟県	1人	飯綱町	1人			長野市	72人

## 9 指定一般相談支援事業（地域移行支援事業・地域定着支援事業）（相談室）

地域移行支援は、専任3人で1件ずつ3件支援を行った。2件は宿泊型訓練施設とグループホームへ入所となり、1件は退院には至らなかった。

今年度は地域定着での緊急対応はなかった。

緊急時連絡の取れる体制や定期的に様子を確認するような支援の希望は地域で安心して暮らすためには必要な支援である。

### （1）重点事項

- ア 精神科病院等と連携しての地域移行支援の実施
- イ 相談者主体の地域移行支援の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- ウ 関係機関との情報共有、連携強化

### （2）取り組み

- ア 地域移行支援（地域移行支援計画の作成等、地域生活移行のための相談、外出同行、障害福祉サービスの体験利用、体験的な宿泊支援）
- イ 地域定着支援（地域定着支援台帳作成、連絡体制の確保、緊急時の状況把握・対応等）
- ウ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

### （3）実績

#### ア 地域移行支援

	利用実人数	利用延べ月数	継続支援者数
令和元年度	3人	11か月	0人
平成30年度	6人	8か月	0人
比較	△3	3	

#### イ 地域定着支援

	利用実人数	利用延べ月数	緊急時支援
令和元年度	9人	65か月	0回

平成 30 年度	13 人	142 か月	0 回
比 較	△4	△77	

#### (4) 職員体制 (R2.3.31 現在)

管理者 相談支援専門員、地域移行・定着支援員

#### まとめ

- ・地域移行支援では、令和元年度新たに3人支援を行った。  
1人は当法人宿泊型訓練施設へ、1人はグループホームへ、1人は本人の意向と環境調整の折り合いがつかず入院継続となった。グループホームが退院先となった人は、一人暮らしがしたいという本人の意向とは違ったため、1か月後には再入院となっている。
- ・地域定着支援では、実利用者は6人で、安定した生活を送り自信が持てれば本人の意向確認し利用終了としている。新たに単身生活になる利用者の利用希望もあった。
- ・緊急時対応体制は整えているが、今年度は具体的な支援はなかった。日常生活の状況確認のみ行った。

#### 課 題

- ・地域移行支援では、関係者が多くいると、それぞれの立場での考えと本人のニーズの調整が難しいが、地域で安定して生活する為には、生活する本人のニーズに合う支援先へつなげる事を優先できるか。
- ・地域定着支援では、今年度緊急での対応などはなかった。親族の死去により単身生活になったり、高齢障害者の単身生活などには利用希望があり、今後も経過を確認しながら継続が必要な支援である。  
休日、夜間、長期休暇中の緊急時対応の方法の検討が必要。

### 1 0 指定特定相談支援事業 (相談室)

3人の相談支援専門員を中心にサービス等利用計画の作成を行った。

今年度は「モニタリング実施標準期間の見直し時期」が適応となりモニタリング回数が増えた利用者が多くいた。

それぞれのニーズに合った福祉サービスへつなげるため、利用者本人の意向をしっかりと聞き取り、関係機関と連携し対応した。

#### (1) 重点事項

- ア 基本相談支援としての総合的な相談支援の実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い計画相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的的力量を持った職員の育成強化

エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

(2) 取り組み

ア 生活全般に関わる一般的相談、電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整

イ サービス等利用計画の作成（サービス利用支援、継続サービス利用支援）

ウ 専門性の更なる向上のため研修等に参加

(3) 実績

ア 相談

相談者数と障がい別延件数

	実人数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
令和元年度	251人	32件	80件	189件	16件	317件 (重複あり)
平成30年度	249人	6件	69件	186件	31件	292件 (重複あり)
比較	3	26	11	3	15	25

イ サービス等利用計画

作成件数

	サービス利用支援	継続サービス利用支援
令和元年度	252件	479件
平成30年度	243件	405件
比較	9	74

(4) 職員体制（R2.3.31 現在）

管理者 相談支援専門員 障害程度区分調査員（相談支援専門員と兼務）

まとめ

- ・平成27年度から始めた相談支援専門員専任3人体制が今年度も継続された。
- ・可能な限り新規利用者も受けた。
- ・モニタリング実施標準期間の見直しにより、モニタリング回数が増えたが報酬改定により単価が下がり収入には結びつかなかった。
- ・利用者の福祉サービス利用目的が重要視されている。利用希望者それぞれのニーズに合わせたサービスに結び付ける事ができた。

課題

- ・利用目的を明確にし、一人ひとりのニーズを聞き取り、どの部分にどんな支援が必要で、その支援があるとどうなるのかを市町村にしっかり伝えなければ支給決定がでない。

- ・専任3人で作成できる計画相談、モニタリングは件数には限度がある。新規利用者をどう受け入れていくか検討が必要。

## 1.1 指定障害児相談支援事業（相談室）

今年度障害児での新規計画相談の依頼はなく、件数に変化はない。

### (1) 重点事項

- ア 相談者数は少数であるが、地域の社会資源として地域のニーズに応え、障害児相談支援を実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い障害児相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

### (2) 取り組み

- ア 個別相談（電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整）
- イ 障害児相談支援（障害児支援利用援助、継続障害児支援利用援助）
- ウ 専門性の更なる向上（研修、相談支援に関する連絡会への参加）
- エ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

### (3) 実績

#### ア 相談

相談者数と障がい別延件数

	実人数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
令和元年度	7人	3件	6件	0件	3件	12件 (重複あり)
平成30年度	7人	3件	6件	1件	2件	12件 (重複あり)
比較	0	0	0	△1	1	0

#### イ 支援利用援助

作成件数

(件)

	障害児支援利用援助	継続障害児支援利用援助
令和元年度	9	4
平成30年度	10	6
比較	△1	△2

### (4) 職員体制（R2.3.31 現在）

## まとめ

- ・件数に変化はない。今年度末に1人学校を卒業する方が、特定相談事業に移行していく予定。

## 課題

- ・今年度障害児での新規計画相談の依頼はなく、件数は変化ない。
- ・障害児対応は特に障害児に特化して専門性が必要で、利用するサービス事業所も障害者とは異なる。よりよい各々にあったプラン作成に限界がある。

## 1.2 指定共同生活援助事業（グループホーム）（定員25人）

指定共同生活援助事業（グループホーム）は以前に比べ、個別に必要な支援を提供する方向になってきている。入居されている利用者個々のスキルに合わせ、習得したい生活技術の向上に向け、個別に対応を進めている。男女共同で暮らしているグループホームも今後は男女別の方向に進めたいと考えている。

今年度グループホームからの退所者は3人で、内訳は、アパートでの一人暮らしが1人、自宅が1人、入院が1人である。

新規の入居者は6人で、うち3人がフレッシュとくまの宿泊型訓練事業から、3人が家庭からである。

世話人体制は利用者5人に対して世話人1人とし、看護師の配置により体調管理の強化を実施してきた。

### （1）重点事項

- ア 居住の場の提供と日常生活における必要な支援
- イ グループホームから次の生活の場への移行のための取組・援助
- ウ 退所後の安定した生活維持のための支援

### （2）取り組み

- ア 日常生活について
  - （ア）調理、掃除、買い物、金銭管理、服薬確認等を補助した。
  - （イ）家族、日中活動先等の連絡調整を行った。
  - （ウ）対人関係、日常生活の不安や課題へ相談支援を行った。
- イ 地区交流事業について
  - （ア）地区の清掃事業に参加した（河川・側溝・公園・神社等）。
  - （イ）地区の行事に参加した（防災訓練・区民運動会等）。
- ウ 日常支援について

- (ア) 日中世話人が住居を巡回して在宅の利用者の支援を行った。
- (イ) 午後3時頃からは、夕食準備の支援や相談等利用者の支援を行った。
- (ウ) 土、日、祝日は巡回により、安全確認を行った。
- (エ) 看護師の定期訪問により健康管理に努めた。

### (3) 実績

ア 年度比較(1日平均利用者数) (人)

	30年度		令和元年度	
	定員	1日平均利用者数	定員	1日平均利用者数
いなだの家	6	5.16	6	4.4
サテライトパークハイム東和田	1	0.99	1	0.95
こまざわハウス	5	3.82	5	4.29
サテライトFドエル	1	0.86	1	1
サテライト徳間コーポ	1	0.94	1	0.84
のくとまーる	10	8.84	10	8.65
サテライトグランステージ長野	1	0.84	1	0.65
合 計	25	21.5	25	20.8

- イ 新規利用者 6人(フレッシュとくま 3人・家庭 3人)
- ウ 退所者 3人(一人暮らし 1人・家庭 1人・入院 1人)
- エ 利用者数 24人/定員 25人(R2.3.31現在)

### (4) 職員体制(R2.3.31現在)

管理者 サービス管理責任者(世話人兼務) 世話人・支援員 看護師

#### まとめ

- ・法人のグループホームにおいては、日中の活動場所の確保をお願いしているが体調との関係でどこにも行けない人が増えてきている。一人ひとりが自分らしく生活することを目指すこととの矛盾を感じてしまう。
- ・今年度は空き部屋の補充ができず、見込んだ収入を確保できなかった。

#### 課題

- ・近年は個々の利用者に対し個別の支援が求められていると考えられるが、今後支援体制も利用者に合わせて柔軟な対応を考え、進めていく必要がある。
- ・退去から入居までの空き室の対策が必要である。
- ・アパート型グループホーム(のくとまーる)は保険や水道の開栓等契約が必要とされるので、体験としての受入ができない。

- ・こまざわハウスは老朽化が徐々に進行しており、代替施設の必要性を含めて検討を進める必要がある。

資 料（令和2年3月31日現在）

年代別数 (人)

性別 数	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
男 14	0	5	5	1	3
女 10	1	2	4	3	0
計 24	1	7	9	4	3

障害支援区分別数 (人)

	非該当・区分 1	区分 2	区分 3
いなだの家	0	4	1
サテライトパークハイム東和田		1	
こまざわハウス	0	2	3
サテライト F ドエル		1	
サテライト徳間コーポ			1
のくとまーる	0	8	2
サテライトグランステージ長野	1		
合 計	1	16	7

### 1.3 指定自立生活援助事業（定員なし）（自立生活支援室）

今年度は主に在宅で一人暮らしという環境になった方やアパートで生活してきたがお金を上手に使いえず、破綻してしまいそうな方に対し支援を行った。支援が入っている期間はそれなりに安定した生活を送れていたと考えられる。

#### (1) 重点事項

- ・生活力・社会適応力を高め、安心して地域で生活できるような支援
- ・利用期間内にサービスの調整等を実施し、終了後の安定した生活の構築
- ・地域生活において生じる課題の解決に向け、取り組みを進め安定した生活が送れるような支援

#### (2) 取り組み



ア 状況確認について

(ア) 定期的な訪問・面接等により本人の生活状況を把握した。

(イ) 必要に応じ地域役員・関係機関と連絡調整を行った。

イ 相談について

(ア) 訪問及び面接時に困っていることや不安に思っていること等相談を受け、解決に向けて一緒に取り組んだ。

(イ) 利用終了時を考え必要なサービスの情報提供を行った。

ウ 地域との連絡調整

(ア) 地域住民からの苦情や要望について話を聞いた。

(イ) 解決に向け、話し合いを開いた。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延べ契約者数	新規利用者数	解約者数
令和元年度	4	3	2

イ 月別利用実績

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	21	19	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	238日
延べ支援回数	4	8	8	12	12	8	8	8	8	8	8	8	100回
登録実人数/月	1	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2.1人
平均利用者数/日	0.2	0.4	0.4	0.6	0.7	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4人

(4) 職員体制(令和2.3.31現在)

施設長 サービス管理責任者 支援員

まとめ

- ・利用期間が原則1年という短期間であるため、終了時を見越した支援を実施しなければならない。
- ・具体的成果が見えないので、利用する側にとっては必要性を感じられないサービスと考えられる。
- ・地域生活における不安などは解消に繋がっていると考える。

課題

- ・1年間限定の支援のため、利用開始当初から課題を明確に把握し、終了後のサービスに繋がっていく必要がある。

- 支援者側からはこの事業が必要と思われる場合でも本人の意向が最優先とされているため、利用を希望しない方については支援できない。
- 利用者の確保を今後どのように進めていくか考えていく必要がある。